



五味池破風高原から北アルプスを望む 須坂市観光協会提供

# 須高保護だより

第6号

平成29年3月1日  
発行 須高地区保護司会  
編集総務部



ご挨拶

須坂市教育長 小林 雅彦

司会の皆様には、私たちの誰もが願う「犯罪や非行のない、誰もが笑顔で過ごせる地域づくり」の先頭に立ち、罪を犯した人の立ち直りを見守り、励ますという尊い活動をしていただいている。その御労苦に対して心より感謝申しあげます。

さらに毎年、小中学生を対象とした「社会を明るくする運動」作文コンテストを実施していただいておりますことは、須高の子どもたちをはじめ、教育関係者にとって大きな意義を感じているところです。このコンテストの作文を読むと、「社会を明るくするため私に出来ることは何か」とか「人とふれあいを通じて私の心に変化が生まれたのはなぜか」といった深みのあるテーマが実体験に基づいて書かれています。例えば、今年度、県の最優秀賞を受賞した東中学校二年鈴木希さん

の「世界を輝かせる魔法」を読むと、

転校して孤独を感じていた小学生時代、あるおじさんとの挨拶による交流がきっかけとなつて、他の人に対するかな感性でしっかりと見つめ直しています。「大きなリュックを背負つた人のおじさんからの挨拶は、私の世界をガラッと明るく魔法のように変えてみせた」と言い、最後に『おはよう』、あなたの一言が世界を魔法にかけるのだ」と実感を込めて結んでいます。

私は毎年、この作文集を読むたびに、どの子も自分の足下をしっかりと見つめていることに感心し、さらに「成長を欲する者はまず、根を確かにおろさなくてはならぬ。上にのびる事をのみ欲するな。まず下に食い入ることを努めよ」と言つた和辻哲郎の「樹の根」という文章を思い出します。人間としてしっかりと大地に根を張ることを学んだ子どもが、人の気持ちに寄り添い、励まし続けることができる、まさに社会を明るくするリーダーとして育つていくと信じています。

皆様方には、今後とも一層のお力添えをお願い申し上げます。須高地区保護司会の益々のご発展を心よりお祈りいたします。

## 須高地区保護司会

会長 葦澤 義文



保護司の役割には  
大きく分けて二つあ  
ります。

一つ目は、犯罪や  
非行をした人たちの立ち直りを助ける

ための、見守り、指導、相談支援等で  
す。具体的には、保護観察官と協働し  
て、保護観察対象の改善更生を図りま  
す。保護観察期間、毎月の往訪來訪を  
通じて対象者の更生を目指します。更

には、刑務所や少年院にいる人が帰つ  
てくる場所の生活環境の調整を行ない

ます。

二つ目は、地域における犯罪や非行

を防止する活動です。その大きな活動  
が「社会を明るくする運動」です。当  
地区でも、更生保護女性会並びに協力  
事業主会と共に駅前での街頭啓発

活動、地域住民を対象にした講演会、  
小中学生の作文コンテストなどを行つ  
ています。

今年も、地域の皆様や関係団体と連  
携しながら、犯罪や非行のない明るい  
地域作りを目指したいと思います。

## 須高更生保護女性会

会長 関谷 庸子



去る一月六日、高  
山村では伝統行事で  
ある“どんど焼き”  
に合わせ、まゆ玉作  
りを行いました。核

家族化によりお年寄りと子育て世代の  
皆さんとの触れ合いの機会が少なくなっ  
ている昨今、冬はまゆ玉作り、夏は七  
夕飾りを開催しております。未就学兒  
童との母親を対象に、社協と子育て支  
援の計画のもと村老連婦人部、村更女  
会がお手伝いをさせて頂きました。可

愛らしい子供達のお子守や、作品の制  
作をお手伝いし、出来上がった“まゆ  
玉”をだんごの木につけて飾りものを  
つけると賑やかに出来上り、皆大喜び  
で、家に持ち帰りました。すぐすぐと  
育つ、子供達の成長を願いながら楽し  
いひとときを過ごしました。“子ども  
は親の背をみて育つ”と云われますが  
親自身、自らを顧みてしっかりと親子  
の絆をつないでいくつてもらいたいと願  
わざにはいられませんでした。本年も

関係団体と共によりよい須高地区の明  
るい地域づくりの為に活動して参りました  
いと存じます。

## 須高地区更生保護協力事業主会

会長 小林昌之



平成二十年十一月

に発足した当会で  
は、来年には十周年  
を迎えることになり

ます。会員の減少はあつたものの、現  
在八十社に加入いただいております。

雇用は困難であつても趣旨に賛同い  
ただける多くの事業主の協力により、

会費を徴収しての運営をして参りました。  
この間には

①保護観察者受入に関するアンケート  
②更生保護に関するシンポジウム  
③更生保護施設・裾花寮の視察研修  
等々開催されてきました。

会員の参加が少ないことは残念では  
あります。ですが、保護司会・女性会のご協  
力により充実した事業となっています。

主旨にある雇用の受入れに関する  
は、過年度に「長野保護観察所」に登  
録される「協力雇用主名簿」作成を実  
施しましたが、現在のところ半数に満  
たない登録となつております。登録内  
容の更新時等に併せ、新規登録にご協  
力をお願いします。

## 第六十六回「社会を明るくする運動」 作文コンテスト 受賞者

◎県コンテスト

◆小学生の部

▽入選 鶴田真優||栗ガ丘6 岡山  
楓||小山6 青木千洋||仁礼5

◆中学生の部

▽最優秀賞 鈴木希||東2  
▽優秀賞 岡山楓||小山6 青木千  
洋||仁礼5

◆小学生の部

実||東2

◆須高コンテスト

▽最優秀賞 鶴田真優||栗ガ丘6  
▽優秀賞 岡山楓||小山2 青木香  
里奈||森上6 青木琴音||日野6

▽佳作 古川樹羅||森上3 大島優  
里奈||森上6 青木琴音||日野6

▽優秀賞 岡山楓||小山6 青木千  
洋||仁礼6

▽佳作 横井泉水||常盤3 内山未  
萌||相森1 上原佑月||相森1 塚

田杏香里||相森2 南澤夏奈香||東

▽優秀賞 米沢胡春||相森1 青木  
香実||東2 鈴木希||東2

◆中学生の部

▽最優秀賞 藤澤美稀||高山2

▽優秀賞 米沢胡春||相森1 青木  
萌||相森1 上原佑月||相森1 塚

▽佳作 横井泉水||常盤3 内山未  
萌||相森2 南澤夏奈香||東

◆小学生の部

力をお願いします。

## 第66回 「社会を明るくする運動」

平成28年度、県・須高地区作文コンテストが実施されて、一月二十一日（土）に表彰式が行われました。県作文コンテストでは最優秀賞に鈴木希さん（東中二）が受賞されました。須高地区作文コンテストでは最優秀賞に藤澤美稀さん（高山中一）、鶴田真優さん（栗力ガ丘小六）、が受賞されました。今年度は鈴木希さんと藤澤美稀さん、鶴田真優さんの作文を紹介します。

28年度県作文コンテスト最優秀賞

# 「世界を輝かせる魔法」

「挨拶は魔法だ」

そんな言葉を幼い頃一度だけ聞いたことがある。私がその言葉をずっと覚えて

は結局解くことが出来なかつた。  
大きくなるにつれて、私は挨拶をしなくなつていた。挨拶をするのは恥ず

は以前通っていた学校の倍以上の人数の生徒が通っていた。知らない人しかいない中で元々人見知りな性格の私は、一人孤立し、休み時間になると、一人で図書室に行くようになった。一人で本を読む私を見ると、転校生の私を心配して話しかけてくれていた女の子達も話しかけてこなくなつた。そんな私を救つたのは、一つの「挨拶」だった。ある日、私が一人学校へ

がちいといふう思ひが強くなつたからだらう。挨拶をされても、返さないことが多かつたかもしない。そんな時、私は他県に引っ越すことになつた。生まれ育つた故郷とは全く違う場所に、私はとてもとまどつた。私の故郷は山に囲まれ、自然があふれる小さな町だつた。だが、私が引っ越した場所は、店が並び人通りが多く車が行き交う町で、山は遠くにうつすら見えるだけだつた。私が通りここにまつて小学校

「同じ時間にいけば、おじさんに会える」そう思うだけで、学校に行くことが楽しみになつた。しかし、ふいにおじさんには会うことが出来なくなつた。おじさんが歩く時間を変えたのだろうかと思い、少しずつ登校する時間をえてみても、おじさんに会うこと下げ通りすぎることしか出来なかつた。下げるを返そうと思うのだけど、結局いつも声を出すことが出来ずに、頭を小さくは出来なかつた。

「何があつたのだろうか。

私は心配になつた。おじさんの温かな挨拶がないだけで一日がとても憂鬱になつた。だから、久しぶりにあの大きなリュックを見た時、私はとつてもうれしくなり初めて私はおじさんに勇気を出して自分から挨拶をした。

おじさんは驚いた様な顔をした後、とてもうれしそうに笑った。その笑顔を

登校していると、大きなリュックを背負つて、通学路の向かいから歩いてき

見て、私も思わずくすりと笑っていた。  
そして、頭の中にあの言葉が浮んだ。

【挨拶は魔法だ】幼い頃解けなかつた疑問が解けた気がした。たつた一つの疾謬が、お互ひをこんなに幸せで温か

い気持ちにさせてくれる、名前さえ知

らない人と笑い合うことができる。挨拶の魔法の様な力に気付いてから、私はおじさんと毎日ぎこちなくだが、挨拶を交わすようになつた。挨拶がすくなりと口から出るようになつたある日、私は母に向ひて、「おはよう」

曰 私は母に小さな声で「おはよう」と言つた。母は少しの間私をじつと目つめてから、弾んだ声で「おはよう」

と返してくれた。それから私は挨拶をする人を少しずつ、少しずつ増やそうと思いついた。信号の前で

先生は同級生に「自分からわざわざ出でるようになつていつた。挨拶で生まわる幸せな気持ちを多くの人に伝えたい」と思ひ、私は挨拶を続けた。最初は巨

思い和わ挨拶を繰りかえすうちに、最後に、  
してくれなかつた人も次第に返していく  
れるようになつた。挨拶を続けていく

と自然と気持ちが明るくなつていった。転校してからあまり口をきかず、本ばかり読んでいた私にも挨拶のおかげ

げで親友と呼べる友達が出来、二人で図書室に通うようになった。

大きなリュックを背負つた一人の女性  
じさんからの挨拶は、私の世界をガラッ  
と明るく魔法のように変えてみせた。





てもよく教えてもらっている。現代の家庭事情を見ると、核家族化が進み、お年寄りと生活している家庭が減少している。私にも祖父母はいるが、少し離れた所にいる。小学生までは、学校から帰宅する場所は、祖父母のいる家へ帰っていたが、中学生になると部活が始まり、祖父母との会話が極端に減ってしまった。同じ家に住む家族が一番の話し相手なのかもしれないが、またその反面、反発も強くなってしまうのかもしれない。

私の住んでいる地区には、非行や犯

罪を犯す人がいない。なぜなら、地区では年間通して子どもと大人がふれ合う行事がたくさん計画されており、地区の団結力がとても強い地区だと父は言う。行事の例としては、春祭りから始まり、田植え、じゃがいもや、夏野菜の植え付け、育成会行事の駅伝大会夏休み中の小中交流会、区民夏祭り、収穫したもち米でもちつきを行い、どんどん焼きには大人の方々が作つてくれた米粉を丸めて、まゆ玉を作り、一年の願い事を通じて、区民の団結力とコミュニケーションが図られているのだと思う。

最後に、「伎楽会」に入り、私の変化について述べる。友達以外の年配の方とふれ合えたことで、私の心の中のイライラする感情がなくなってきた。友達同志のトラブル事で心が病む時があつても、不思議と、親と話をするようになり、年配の方と話をしている方が、心がやわらぐ様になつた。そして、地域の人達にたくさん声をかけてもらえる様になり、私自身とても嬉しく、心が明るい気持ちになる。

伝統芸能を通して、もう一度、家庭の厄払いを復活させ、地区の人達とのコミュニケーションを計つていきたいというのが私の夢である。「地域の輪 広がれ」

では年間通して子どもと大人がふれ合う行事がたくさん計画されており、地区の団結力がとても強い地区だと父は言う。行事の例としては、春祭りから始まり、田植え、じゃがいもや、夏野菜の植え付け、育成会行事の駅伝大会夏休み中の小中交流会、区民夏祭り、収穫したもち米でもちつきを行い、どんどん焼きには大人の方々が作つてくれた米粉を丸めて、まゆ玉を作り、一年の願い事を通じて、区民の団結力とコミュニケーションが図られているのだと思う。

## 当地区事業主会の歩み

会常務理事・保護司 小柳 邦義

須高地区更生保護協力事業主会が設立し既に八年が経過しました。

平成十九・二十年に、保護司会役員や雇用主会窓口の育成部会（現協力組織部会）会員を中心には、地区内事業所に会の設立趣意書を提示し、東奔西走した結果、多くの事業所から設立に賛同を得ることができました。

県下先進地区の状況を把握し、設立要領、事業内容、予算案等を幾度も部会において検討を重ね、総会、理事会及び臨時総会等を経て、平成二十年十一月二十四日の設立総会において、県下一番目の雇用主会組織が誕生しました。

この設立については、当時保護司会長に就任された三戸部会長の商工会議所、建設業協会等業界及び行政機関への、積極的なアプローチによるご功績が大変大きな要因がありました。

当時県下の多くの設立地区では、「協力雇用主会」の名称を用いていましたが、当地区では当初雇用よりも趣旨に賛同する事業主を広く求めることがら、「協力事業主会」と命名しました。

そんな関係で当地区は、県下一つの事業所数の賛同を得て発足をしました。野平初代会長の就任で、組織の独立や会の運営がスムーズにできるよう二

年目から会費を徴収し、また地区内事業所の会員意識調査を実施しました。

そして保護司と観察対象者に対する理解度の必要性や、会についてはPR活動を推進し、会員が活動内容をよく理解することが重要である旨提言しました。

この調査において、条件によつては観察対象者を受け入れても良い事業所が、存在することが確認されました。

このことは、平成二十五年七月の長野保護観察所が実施した「協力雇用主名簿作成」の集計結果でも、当地区内に雇用検討可能な事業所が存在しております。

後任の林会長、そして今年度就任の小林会長は、これらを考慮し、保護司会との関係を密にするため、協力組織会・地区更生保護女性会の総会や研修会・地区更生保護大会、地区保護司施設、社明運動のPR活動参加や社明講演会の共催実施をしております。

また、県更生保護大会、地区保護司会への参加をはじめ、啓発広報紙「なががの保護だより」を毎月、「須高保護だより」を毎年それぞれ会員に配布して、保護司等の業務に対する理解が深まるよう努力しています。

さらには、会費の徴収時に、全事業所を担当理事がそれぞれ訪問し、各事業所との交流も促進しております。

当会も設立から九年目を迎え、過去

に観察対象者を雇用した事業所はあります  
が、会の組織を通じて雇用した事  
業所はござりませ。

現在当地区内では、雇用を求める観察対象者がいませんが、今後求職希望者が出了場合には、就労支援担当保護司を通じて事業主会と保護司会はもとより、事業主、観察対象者及び担当保護司の連携を密にして、支援できる制度を活用しながら雇用につながるよう、対応を進めていきたいと考えています。

地区外研修旅行報告

研修部会長 市村多喜子

昨年十月六日、七日の両日、須高地  
区保護司会、須高更生保護女性会の会  
員総勢二十八名で地区外研修旅行を実  
施しました。

加しました

一 日目。午前六時過ぎに須坂を出発し、渋滞の都心を抜け、三井ガーデンホテルでの昼食。その後、研修先である千葉刑務所へ。午後一時の訪問時間まで、矯正作業作品の売店で待ちました。こちらは、入所者との面会の順番を待つ方々の待合室にもなっていて、いくつかの刑務所の訪問をしてきましたが、この場面を目にするのは、初めてでした。

当施設は、定員一三四二名のところ、現在九一〇名の収容人数との事。罪名



第六十二回

第六十二回  
**長野県更生保護大会**  
平成二十八年十月二十一日、大

◎新任保護司

関谷庸子（二十八年十一月九日付）  
長年のご活躍に心より感謝を申し上げ

瀧谷恵津子（高山村大字中山、平成  
二十八年十一月十日付）  
今後のご活躍をご期待申し上げます。

あとがき

○巻頭言をお寄せ頂きました小林須坂市教育長様に厚く御礼申し上げます。作文コンテストの作品について、心温まるお言葉を賜わり感謝いたします。○刑の一部執行猶予制度が、平成二十八年六月に施行されました。薬物使用の対象者が想定されており、保護司の異なる処遇技術の向上が求められます。

法務大臣表彰

涌井二夫

關東地方保護

齊藤友吉

野平芳一

麻山智晃

長野保護觀察

市川栄子

長野県保護司

西原ちえ子

宣教の告白

保護司の異動

卷之三